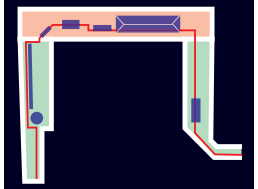
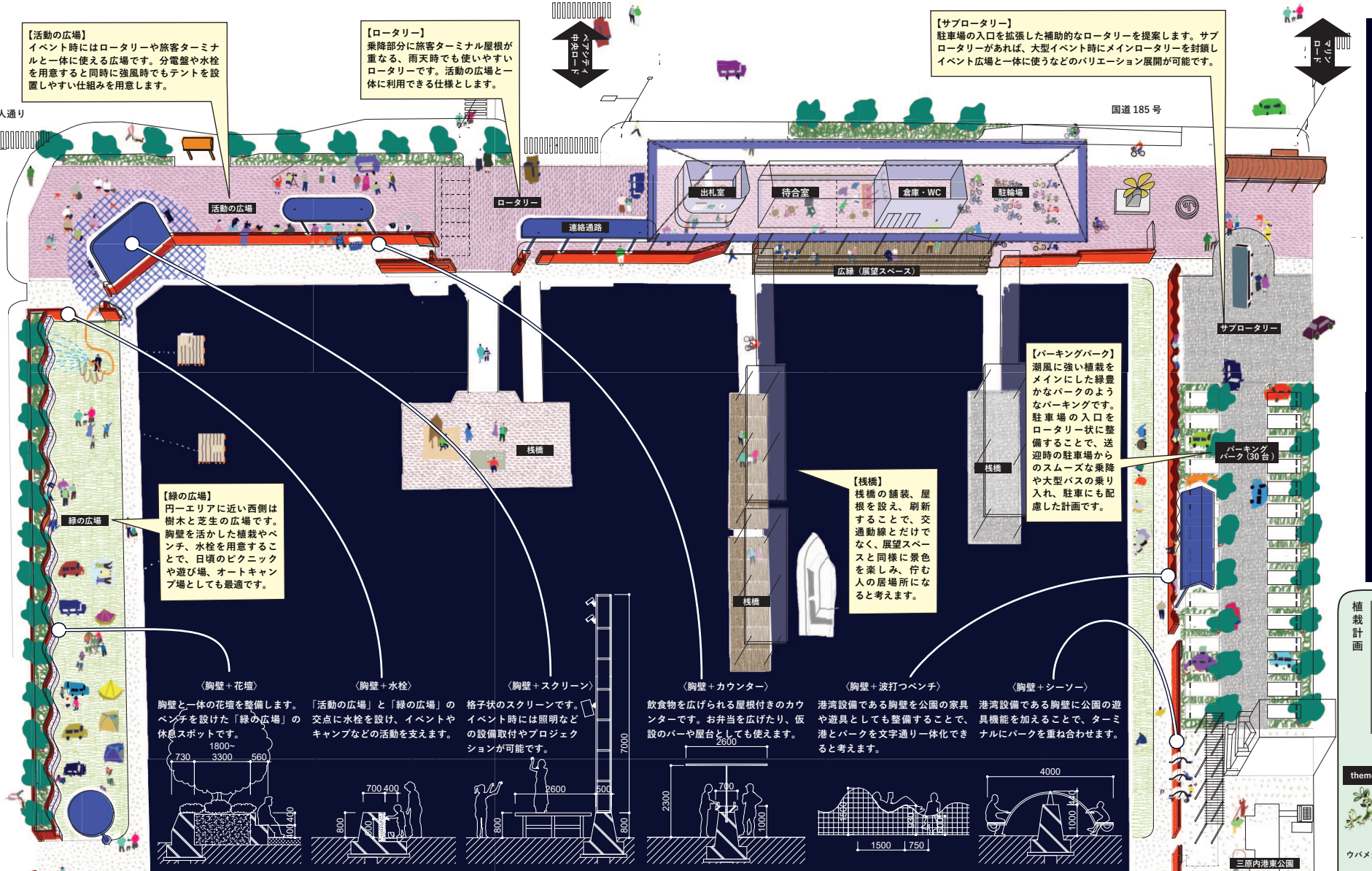
港に人の居場所を重ねる サスティナブルな ターミナル＆パーク

全てを刷新するのではなく、既存部分を活かすリノベーションの発想で縮小しつつある従来の港湾機能に人の居場所を重ね合わせます。この先、永く市民に愛されるサスティナブルなターミナル＆パークへの再生計画です。



港を貫く胸壁に、旅客ターミナルや庇、花壇、スクリーンなど“人の拠りところ”を重ねてゆきます。

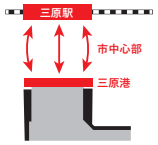


植栽計画

コンクリートで覆われた港を快適に過ごす公園として再生するために、港湾エリアの過酷な環境に配慮した植栽計画が必要です。本提案では在来種かつ耐潮性のある常緑広葉樹を主として、潮風があたる海側に、トベラ、シャリンバイなど常緑低木、街側にヤマモモやウバメガシなどの常緑中高木を配置します。瀬戸内に自生する植物を中心に港の環境で育ち、メンテナンスの少ない樹木をレイヤー状に配置します。

theme 1 駅からの人々を受け止める「広い間口」

三原駅と市中心部の景観形成の軸、にぎわいづくりの軸を受け止めるため、「活動の広場」から「ロータリー」「旅客ターミナル」を一体の空間と捉え、敷地の東西目一杯に間口を広げます。東西の人の流れを促すよう動線を確保し、三原駅・市中心部と三原港を回遊する人の流れを促します。



theme 1+2 新しい三原の「展望スペース」

海を眺める三原の新しい景観として提案する広縁＝「展望スペース」のヒントになっているのは宮島の豊国神社（千畳閣）です。靴を脱ぎ、暗がりのなかに輝く板の間で思い思いに景色を楽しむ。新しい「展望スペース」はそんな空間をイメージしています。

宮島の豊国神社（千畳閣）

theme 2 拠りどころとしての「胸壁」

元来、防潮機能を担う胸壁ですが、現状を観察すると、人々が腰掛け、荷物をおき、飲み物を置く、人の拠りどころになっていることがわかります。私たちはこの可能性に着目し、拠りどころとしての胸壁を発展させます。

現在の三原港。胸壁に腰掛け佇む人々

市民とつくる「ターミナル＆パーク」

市民の小さな声にも耳を傾けられるよう、一定期間現地に赴きリサーチと市民へのヒアリングを実施します。設計～工事期間に、敷地内（または敷地近く）に新しい三原港を市民の方々と共に考え、共有し、発信する「準備室」を作りたいと考えています。

過去のプロジェクトで設計期間に敷地近くに設置した設計の「ブンシツ（＝分室）」

【眺めのパス】
賑わいから離れて佇んだり、黙々とスプリントトレーニングをするには最適な眺めの良いパスです。植栽は既存のものを活用し、現状の静かな雰囲気を引き継ぎます。